

中国の書画家 女川視察、被災地を理解

現代中国を代表する書画家の婁正綱（ろうせいこう）氏が16日、東日本大震災で大きな被害を受けた女川町を視察した。視察の成果を踏まえた作品を、復興支援の巡回作品展に出展するという。

町役場仮設庁舎で須田善明町長と面会し、町中心部に移動。23日に開業するテナント型商店街「シーバルピア女川」やJR女川駅、津波で被災した旧女川交番などを見学した。

婁氏は「自然に対する無力さや悲しさを感じる
が、新しい希望を持って作品にして伝えたい」と話した。いずれも被災地の陸前高田市や南三陸町、石巻市にも足を運び、見聞を深めた。

作品展「未来絵PROJECT巡回展 絵のちから」（実行委員会など主催）は2016年夏～18年秋、盛岡、仙台、神戸の各市などで開かれる予定。婁氏のほか、映画監督でタレントのビートたけし氏、米国の画家のダグ・ウェブ氏も趣旨に賛同し、計約90点の作品が出展される見込み。



女川町中心部を視察する婁氏（右から2人目）